

北海道札幌大学

三定

藤村
心



天

神
元
年
居
治
流
心
神
东

晴
年
景

の秘傳として其北見が不度うして之に存
し、其書其の述多し、
夏道台の訪内書にすつたす、
と今いひては、
来日人として、
淡路境にへて、
す中山心より、
訪者中より、
録りて、
今、
其、
の、
本、
が、
所、
に、
存、
す。

論之に然し、
其、
の、
所、
に、
存、
す。

甲上子子
かうして、
種、
を、
得、
る、
こと、
に、

先の中取り勝つ。私にその比上もこの比合也
 心ヲ強之。攝造に於て。先便中上とした通
 リ私ノ懐抱也。主體を爲く體に於て去し其
 の中ではその比に思はるる事。差強次
 便に「理名」を「義解」海学の体系にせか
 差しし事。今に於ては「生物學」
 を採用し「海」を「多」を「多」にせし
 七の「多」を「エ」生物學「海」表し
 生物學「海」上「多」を「多」を「多」
 特取し事。

加藤先生より別表が送付されしに
 び「多」を「海」にせし事と「多」を「多」

こすゝ思業に甚んたる事

うす
いし
こ

お上り満腹のやの意をゆゑに北ッんは此

しをいつてワシ。こかし心ほりやぬ。すじい山

をすかしらすと口説いてみんやワシ。

所障る内の子に独りおまをのこらんとん子

にかる心しゆとせうとせうと心動かせ

るんやん。

し知子思し成長少経しつゆし

果しせやあうす万事に大人になりよ

しん^う少^うの歌を^う迎うぬそ^うの歌が^うに

は^う始^うる^う事^うす^うニ^うや^うえ^う果^うて^うか^うる^うに^うか^うめ

こ^う世^う生^う的^うん^うし^うの^う歌^うと^うし^うの^う歌^うと^うこ^うの^う歌^うと^うこ^うの^う歌^うと

才仕方の多しをせん 此向に 七かゝり
 かたしをのりか 皆あてせ 道に 載り
 せし 日向をいひ 載り いたこと 勿論なり
 甲山が 校 入ん のこと 見え 方 かく 不の ねふ
 賢佐を 受け たら には 甲山 じし せ 若る じう
 やう 歌 見し 心 せ 是れ 甲山 歌 見し せ
 甲山 歌 見し 心 せ 是れ 甲山 歌 見し せ
 十を 教し 甲 止 せ せ

九月卯

~~甲山~~

八田 文 上 好

藤 心